

相模原商工会議所 景気観測調査結果

平成30年度 第1四半期 (平成30年4月～6月)

業況DIは、回復基調続く。先行きは改善見込むも力強さ欠き、横ばい圏内の動き。

ポイント

▶ 平成30年4月～6月期の総合業況DIは▲1と、前期▲17から+16ポイントの改善。製造業（前期▲10・今期3）、建設業（前期▲12・今期8）、小売業・卸売業（前期▲37・今期10）が牽引した。

製造業では、ものづくり補助金を活用した設備投資の活況感という声がある一方で、好景気の継続性を疑問視する声もあがった。また、業種を問わず深刻な人手不足や原材料費・燃料費の上昇を指摘する声は依然として多い。

ただし、相模原市の中小企業の景況感とは、総じて緩やかな回復基調が続いているといえる。

▶ 次期見通しについては、総合業況DIは1と、今期▲1から+2ポイントの改善。製造業（今期3・次期▲6）、小売業・卸売業（今期10・次期5）と悪化が予測されているが、飲食業・サービス業（今期▲13・次期0）が全産業の改善を牽引している。

なお、総合業況DIは改善見通しではあるものの、「各業界から寄せられたコメント」から厳しい景況感も伺える。

各業界から寄せられたコメント

【電機機器の開発製造業】
一時的な設備投資需要により引き合いが増加しているが、継続性は無しとみている。雇用はその後を考えると踏み切れない。

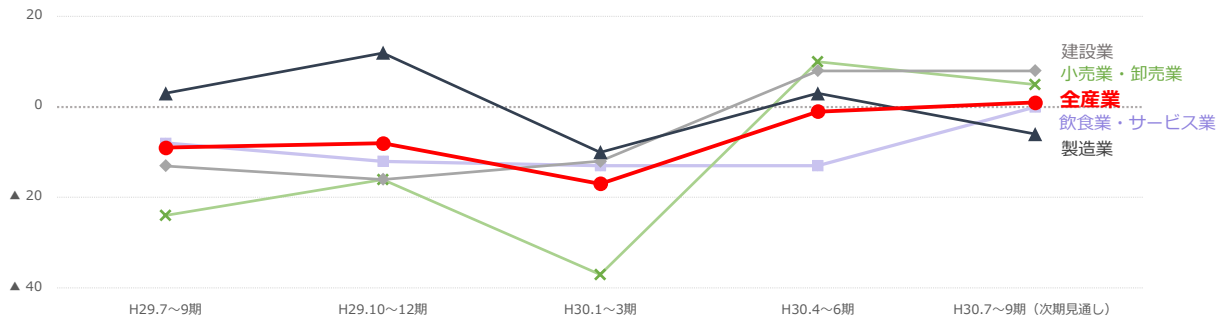
【管工事業（水道工事業）】
売上は拡大しているものの、住宅新築の数が若干減少した印象。特に宅地造成（開発行為）現場の数が市内で少なくなっている。

【リフォーム工事、新築工事】
全面的に不況という会話がが多い。新築ではなくリフォームが多い。

【不動産売買（買取再販）・仲介】
需要層の購買意欲の減速による様子見が多く、契約率の減少につながっている。

※調査結果の詳細については、当所HP『サービス一覧→情報→(相模原市管内)景気観測調査』をご確認ください。

業種別業況（総合判断）DI値の推移



	前々期業況 (H29.10-12)	前期業況 (H30.1-3)	今期業況 (H30.4-6)	次期見通し (H30.7-9)
製造業	12	▲10	3	▲6
建設業	▲16	▲12	8	8
小売業・卸売業	▲16	▲37	10	5
飲食業・サービス業	▲12	▲13	▲13	0
全産業 (総合)	▲8	▲17	▲1	1

快晴 DI値:▲31以上	晴れ DI値:▲30~▲11	薄曇り DI値:▲10~▲1	小雨 DI値:▲11~▲30	雨 DI値:▲31以下
-----------------	-------------------	-------------------	-------------------	----------------

調査期間：平成30年6月1日～平成30年6月29日
 回答率：24.8% 回答社数：124社
 調査対象：当所会員中小企業500社(業種別に無作為抽出)

＜景気観測調査＞

前年度同時期との業況を比較し、「良い/悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値(DI値)を用いる。